

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター 輝なっせ			
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日		～	2026年 3月 6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	59名	(回答者数)	41名
○従業者評価実施期間	2026年 3月 9日		～	2026年 3月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数)	9名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 13日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	毎日の親子療育の実施	・単独療育の際のお子さんの様子を伝えるだけでなく、強みや特性に合った関わり方、成功体験を伝える事で、家庭での般化に繋げやすい視覚的ツール等を用いて、具体的に伝えるよう努めている。	・親子療育の際、もっとご家族同士の関わりが出来るよう「ピア活動」にも積極的に取り組む予定。
2	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインに沿った「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもさんの支援に必要な項目を療育チームで検討し選択、具体的な支援内容を設定している	・ニーズ整理表やご家族の聞き取り、アセスメント表を鑑み、児発管が原案を提案し、療育メンバーで具体的な支援内容等を検討し個別支援計画を作成している。 ・見立てを行い、療育スタッフ全員がそれぞれの見方での意見を出し合い、次の支に活かせる振り返りを実践している。(PDCAサイクル)	・幼児期の子どもさんの意思の尊重を重きに考え、寄り添った計画内容であり、「やってみよう!」「楽しい!」に繋がるよう心掛ける。
3	経験年数のあるスタッフの配置	・チームでのスキルアップを意識して療育を実施しており、個々でのスキルアップをチーム全体でのスキルアップに繋げる意欲が強い。	・今後も、柔軟性を持った考え方で、スタッフ間でのコミュニケーションを図り、ご家族や関係機関との連携にも相乗効果となるようチームビルディングを高める。 ・ベテランスタッフは、育成を通して更に、コミュニケーション能力や育成能力の向上に期待している。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・安全計画に基づいた各種訓練や事故防止マニュアル、緊急時他風マニュアル、防犯マニュアル等の整備を行っているが、保護者の皆さんへ周知や説明が不十分である。	・安全計画においては令和5年度より整備しており、各種訓練においては紙面にて実施後、写真付きで周知しているが、マニュアル等は玄関に設置している。全ての保護者の皆さんが確認しやすい状況ではない為、工夫が必要。	・訓練等は、保護者の皆さんへ紙面にて報告・周知を行っているが、年度末の実施となり、周知までに至っていないあった。来年度は、早期に行う予定。マニュアルについては、全ての保護者の方に確認して頂ける方法を精査する。
2	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	・地域の行事等に参加するきっかけや当センターの事を知って頂く機会が少ない。	・地域の広報誌等を使って、当センターの取り組みのお知らせが出来ないか等、提案する予定。 ・地域の方をお誘いできる行事等を考えていく。
3			

